

2014年1月10日

## 江蘇省常熟高新技术産業開発区について

愛知県上海産業情報センター  
安田 龍

愛知県は、江蘇省と1980年7月に友好提携を締結し、また2010年10月に経済交流に関する合意書を締結しており、経済貿易や知的財産権保護、文化、教育等の様々な分野で交流を図っています。

江蘇省内には、経済開発区が数多くあり、愛知県企業も多数進出していますが、今回その中で2013年11月にトヨタ自動車（中国）研究開発センターが開設され注目を集めている江蘇省常熟高新技术産業開発区（以下、常熟高新区という。）を訪問する機会がありましたので、ご紹介させていただきます。

### 1 常熟高新区の概要

常熟高新区は、長江デルタ地域の中心部に位置する江蘇省常熟市に所在しています。

常熟市は、東は上海、西は無錫、南は蘇州、北は長江に隣接しており、面積は1264平方キロ、人口は206万人になります。気候は、年平均気温15.4度、年平均降水量は1248.4ミリ、年平均日照時間は2130.2時間と愛知県と似た気候環境にあります。

常熟高新区は、元は江蘇省常熟東南経済開発区として、2003年5月に江蘇省人民政府により設立され、2006年7月に国家発展開発委員会による審査・告示を経て、2011年4月に現在の名称に変更されています。

これまで常熟高新区には、自動車部品産業園、日系企業産業園、国家大学技術産業園があり、20か国・地域から700件余りのプロジェクトを誘致し、日本からはトヨタ、日立、三菱など約60社が進出しています。

### 2 交通アクセス

常熟高新区の周りには高速・国道道路網が整備されており、車で上海へ60分、蘇州へ30分、南京へ120分で行くことができます。

空港は無錫蘇南国際空港、上海虹橋国際空港、上海浦東国際空港の利用が可能です、それぞれ車で30分、60分、90分で移動することができます。

鉄道を利用する場合は、車で約25分のところにある蘇州北駅を利用し、高速

鉄道で上海まで約 30 分で着くことができ、滞在時間が非常に短くなりますが、愛知県から日帰りも可能な距離になります。

### 3 自動車産業

中国自動車工業協会によると、2013 年の中国の新車販売台数は前年比 13.9% 増の 2,198 万 4,100 台で、5 年連続世界 1 位となっています。また、2025 年には、中国における年間自動車生産台数は 3,500 万台になると予測され、都市部では交通渋滞の深刻化による総量規制導入の懸念はあるものの、自動車市場は引き続き拡大していくと思われます。

常熟には、自動車メーカーとして奇瑞汽車と LANDROBER の 2 社が進出しており、自動車部品メーカーも 2 時間以内のエリアに 8,000 社以上が集積しています。また、前述のとおり、2013 年 11 月には、トヨタ自動車が R & D センターを開設しました。

このような環境の下、常熟高新区では、今後特に自動車産業分野の発展に注力していきたいとのことで、全体面積 3,000 ムーになる常熟自動車サービス産業園を企画・開発しています。この産業園をベースに、2025 年には常熟全体で約 70 万台を生産することを目標としています。

### 4 サポート体制

数多くある開発区の中でどこに進出するか検討するキーポイントのひとつとして、開発区のサポート体制にあると思います。

常熟高新区では、地方政府の関係部署と調整し、登録資本金の額に応じて、一定期間事務所を無料で提供したり、年間インボイス金額により、実質納税額の一定割合を還付するという優遇施策を整備しています。

このような優遇施策は、多くの開発区で用意されていますが、今回実際進出している企業の方にお話をお伺いしたなかで、「担当者が親身になって相談に乗ってくれたことで、常熟高新区への進出を決めた」という声もあり、進出を判断する際の大きなポイントになると思います。

### 5 生活環境

海外で生活する駐在員にとって気になる生活環境についても触れたいと思います。

まず住居環境については、常熟高新区には四つ星ホテル、ホテル式マンション、外国人専用マンションが整備され、常熟市内には五つ星ホテルも備えられており、駐在員の家族構成等により選択することが可能だと思えます。

常熟には日本人約 600 人が定住しており、日本料理店も 20 軒以上あり、日常

の食事に困ることもあまりないと思います。

海外で気になる病気やけがをした時の医療環境については、常熟高新区に外国人向けに問い合わせから受診、診療、治療にいたるまで一括サービスを提供する国際病院を2014年前半にオープンする予定になっています。また、常熟市内には外国人向け病院が2軒あり、医療サービスを提供しています。

家族帯同での赴任となった場合には教育環境も重要となりますが、常熟高新区内に、UWC世界連合学院常熟分校と国際小学校が設置されており、幼稚園から高校まで、中国語と英語による授業方式が導入されています。

実際に進出を検討される際には、実際に開発区を訪問し、投資環境はもちろん、サポート体制や生活環境についても確認されるとよいのではないかと思います。

上海産業情報センターでは、今後も引き続き中国の経済開発区について、情報提供していきたいと思っております。